

令和6年度 新金沢型学校教育モデル実践推進事業 報告書

学校番号 117

学校名 浅野町小学校

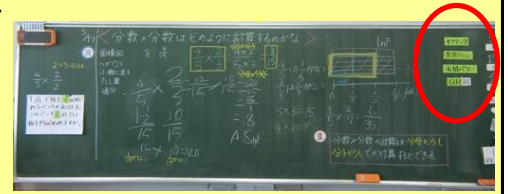
校長名 泉 照美

デジタル活用能力向上推進校

担当者名 林 由佳

1 研究の重点と具体的な取組

- (1) 重点1 主体的に課題解決に向かうための、自己選択の場の設定
 - ・展開の「考える」場面で、自分の考えを形成する方法や表現方法について選択する場をつくる。
- (2) 重点2 個の考えをつなげ、集団で学び合う手立て
 - ・学習形態の工夫(ICT活用)
 - ・板書の構造化



2 研究の重点と具体的な取組の内容

- ・児童アンケートより
「自分の考えをもち、自分の考えを伝えている」 肯定的評価前期79.9%→後期87.6%
「算数の勉強が好きだ」 肯定的評価前期66.2%→後期72.1%
- ・教師アンケートより
「考える場面で、自分の考えをもち、伝えられるように机間指導の手立てをしている」
前期A評価41%→後期A評価43%
「学んだことをもとに、問題を解いたり、まとめ・ふり返りの時間を確保したりしている。」
前期A評価41%→後期A評価79%
- ・「問いプレート」を活用し、児童同士の考えを比較・分類・整理するための視点を示すことで考えを深め、集団で学び合う意義を実感できるようにした。

3 成果と課題

重点1 主体的に課題解決に向かうための、自己選択の場の設定

- アンケート調査からも、算数科における学習意欲の高まりが見られる。自己選択・自己決定を大切に、全員が課題解決に向かって動き出す手立てを工夫できた成果である。
- 研究授業を重ねていくうちに、自己選択の場において、表現方法の選択や交流相手の選択、算数の見方・考え方による課題解決方法の選択など、様々な選択場面があることが分かった。
- ▲教科書やQRコード、友達と相談など教師が手がかりを先に示すため、自分で思考方法を考える動きをする機会が少なくなってしまった。

重点2 個の考えをつなげ、集団で学び合う手立て

- 問いプレートを生かし、児童同士の考えをつなげる意識が教師だけでなく児童も、もてるようになった。
- ICTの良さを生かし、自ら目的をもって交流相手を決め、考えを交流する姿が見られた。
- ▲交流の形態に工夫がいき、ICTによる色分け、一覧表示などパターン化されてしまい、考えを練り上げる場面における具体的な支援が想定できていなかった。